

8月例会レポート

八月らしい晴天の下、東京海洋大学白鷹館にて8月11日（日）14時より8月例会が開かれました。8月10日は青麗の設立日でした。9月のカウントダウン句会からちょうど1年です。「こんな暑い日にやって来たのだから、いい事が一つくらいあるといいね」という高田主宰の言葉に皆希望を抱いて句会のスタートです。

【各自披講】

参加者は42名、ジョニー平塚さんの司会で披講が始まりました。皆真剣に披講していきます。

【高得点句の合評】

5点から9点の7句を合評しました。

【主催選・選評】

☆が15句、☆☆が12句、☆☆☆が6句選ばれました。

中でも那須烏山市で行われた「山あげ祭り」を詠まれた句は、当日の迫力や衝撃に圧倒されるようでした。実際に行かれた沖山さんの「山あげ祭りレポート」が楽しみです。

烏瓜の花を詠んだ句では、高田主宰のお庭の烏瓜の花がまだ咲かないというお話になりました。来年はたくさん咲きますように。

今回の高田主宰のお話のポイントを以下にまとめます。

- ① どの季語を選ぶのかがとても大切でここが勝負である。それにはセンスは
もちろん、たくさんの季語を知ること必要だと思いました。
- ② 辞書を引くこと。青麗では旧仮名遣いで作句します。その際、辞書を引き
確認しましょう。
例えば、倒れる（たおれる）→たふれる、仰ぐ（あおぐ）→あふぐ、など
つい間違えてしまいそうです。
- ③ 正しい漢字を書くこと。例えば蟬は蟬というように。句会に参加し、正し
い漢字を書くことはよいボケ防止になるそうです。俳句って素晴らしい。

【事務局から】

現在青麗誌への投句締め切り間近に、未投句者へ確認メールを発信しています。締切1か月前から投句可能ですので、確認メールを待たずに投句を行ってください。本誌2ページ目掲載の投句締切り一覧をご確認下さい。

次回は9月8日にお会いしましょう！



(文責・レイアウト：佐柳恵美子)